

11 広報関係

プレスリリース（令和3年度）

組織名 年月日	プレスリリースの内容
森林総合研究所 林木育種センター R3. 8. 31	<p>タイトル：世界初 スギのゲノム編集技術を開発ー針葉樹の品種改良の期間を大幅に短縮する新技術として期待ー</p> <p>世界で初めて針葉樹のゲノム編集に成功したことをプレスリリースした。</p> <p>(要旨) 林木の品種改良には交配と優良系統の選抜からなる地道な作業が必要で、世代の更新（次世代化）に10年単位の時間を要します。一方、人工 DNA 切断酵素を利用して、狙った遺伝子領域だけを特異的に改変する「ゲノム編集技術」は、育種期間を大幅に短縮する新技術として注目されてきましたが、針葉樹での利用はこれまでに報告されていませんでした。森林総合研究所森林バイオ研究センターは、森林総合研究所、農研機構、横浜市立大学と共同で、CRISPR/Cas9システムをスギに最適化することで、世界で初めて針葉樹のゲノム編集に成功しました。本研究成果は、国際科学雑誌『Scientific Reports』オンライン版（8月10日付）に掲載されました。</p>
森林総合研究所 林木育種センター R4. 1. 21	<p>タイトル：天女が羽衣をかけたと伝わる「羽衣の松」の後継樹が里帰りー林木遺伝子銀行 110 番による樹木を増殖する取組ー</p> <p>林木遺伝子銀行110番で増殖、育成した苗木の里帰りについてプレスリリースした。</p> <p>(要旨) 国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター（茨城県日立市）では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図るとともに、品種改良等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。この事業の一環として、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存と併せて、所有者等の要請により後継樹を増殖する取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を行っています。今回は、静岡県静岡市から増殖の要請を受けた「羽衣の松」（クロマツ）の後継樹として、つぎ木によって増殖し育てた苗木を里帰りさせることとなりました。</p>
東北育種場 R4. 3. 3	<p>タイトル：雄勝中学校の「奇跡の桜」の後継樹が里帰りー林木遺伝子銀行110番による巨樹・銘木等のクローン増殖の取組ー</p> <p>林木遺伝子銀行110番で増殖、育成した苗木の里帰りについてプレスリリースした。</p> <p>(要旨) 今回、里帰りするのは宮城県石巻市立雄勝中学校の「奇跡の桜」です。雄勝中学校は2011年の東日本大震災の時に津波に襲われて大きな被害を受けました。この時、校門のそばに植えられていて奇跡的に生き残った桜が「奇跡の桜」です。しかし、被災した雄勝中学校は取り壊され、敷地もかさ上げされることになりました。「奇跡の桜」は、支援者のご尽力により、2012年に東京都世田谷区に移されたのち、2013年には雄勝の気候に近い山梨県甲府市に再度移植され、大事に育てられていました。そして、新たな場所で新設された雄勝小・中学校の開校に伴い、2018年、「奇跡の桜」は新しい学校の校木として7年ぶりに雄勝に戻ってくることができました。試練を耐えてきた「奇跡の桜」ですが、樹体の衰えが進んできていたため、2020年12月に東北育種場（岩手県滝沢市）に対し相談が持ちかけられ、「林木遺伝子銀行110番」として後継樹を育成することになりました。2021年2月には、東北育種場職員が「奇跡の桜」から枝を採取し、その後、東北育種場内でつぎ木による後継樹の育成を進めてきていました。里帰りする苗木は、つぎ木で増殖したクローンの苗木なので、親木と同じ遺伝子を持っています。二代目校木の「奇跡の桜」として成長することが期待されています。</p>
東北育種場 R4. 3. 30	<p>タイトル：秋田県指定天然記念物「しだれ桜」の後継樹が里帰りー林木遺伝子銀行110番による巨樹・銘木等のクローン増殖の取組ー</p> <p>林木遺伝子銀行110番で増殖、育成した苗木の里帰りについてプレスリリースした。</p> <p>(要旨) 今回、里帰りするのは秋田県指定天然記念物の「しだれ桜」です。この「しだれ桜」の樹齢は推定400年、樹高が約10m、目通り幹周囲が5.5mで秋田県内最大・最古の名木として1953年に県の天然記念物に指定されました。かつて、この「しだれ桜」を中心に、神功(じんぐう)皇后伝説を有する船霊(ふなだま)神社までの沿道両側200mにわたり桜並木が続き、秋田藩の重臣が桜狩りをした所と言われており、古の面影を伝えているシダレザクラです。この貴重な遺伝子を残すため、2016年4月に所有者から、林木遺伝子銀行110番の申請を受けた東北育種場が2016年12月にこの木から枝を採取し、つぎ木による後継樹を育成しました。今年は県の天然記念物の指定を受けて70年を迎えます。里帰りするのは、「分身」にあたるもいえる慶事であり、管理にあたっている地元でも今まで以上に「心の拠所」となるご神木に期待を寄せているところです。</p>

組織名 年月日	プレスリリースの内容
関西 育種場 R3. 11. 12	<p>タイトル：人形の寺とも呼ばれ歴史ある宝鏡寺の「曙梅」の後継樹が里帰りー林木遺伝子銀行110番による樹木の増殖サービスー</p> <p>林木遺伝子銀行110番で増殖、育成した苗木の里帰りについてプレスリリースした。</p> <p>(要旨) 今回里帰りする後継樹の親木は、宝鏡寺の庭にある曙梅です。曙梅は光格天皇（在任1780-1817）が命名された由緒あるウメで、早春に淡い桃色の優美な花を咲かせておりましたが、近年夏の暑さによるためか徐々に衰えが見られるようになり花の数が少なくなりました。令和2年秋には樹勢の衰えが顕著になり、後継樹の植栽を考えられた宝鏡寺より関西育種場に林木遺伝子銀行110番への申請要望がありました。同年11月に関西育種場職員が曙梅の状態を確認したところ、かなり弱っており、枝の伸びも悪い状況でした。このため申請を受理し、令和3年1月に親木から枝（穂木）を採取し、春につぎ木による増殖を試みました。無事増殖に成功し育成管理した結果、野外に植栽しても生育できる見込みがたった3本の苗木を令和3年12月2日に里帰りさせることとなりました。</p>
関西 育種場 R3. 12. 28	<p>タイトル：国指定天然記念物「椋本の大ムク」の後継樹が里帰りー林木遺伝子銀行110番による樹木の増殖サービスー</p> <p>林木遺伝子銀行110番で増殖、育成した苗木の里帰りについてプレスリリースした。</p> <p>(要旨) 今回里帰りする後継樹の親木は、津市芸濃町にある椋本神社の国指定天然記念物「椋本の大ムク」です。樹齢1500年以上とされるムクノキの大木で、嵯峨天皇（在任809-822）の頃、征夷大将軍 坂上田村麿の家来、野添大膳父子がこの地に逃れた時に、巨大な椋の木の下に草庵を作って住んだと伝わり、このムクノキが椋本という地名の発祥となりました。明治3年に台風で大きな枝が折れてしまったものの、現在も堂々と立派な姿をしております。林木のジーンバンク事業の中で、椋本の大ムクから令和2年2月に枝を採取し、同年5月につぎ木を行ったところ増殖に成功し、令和3年3月保存園に苗木を植栽しました。椋本の大ムクは相当な高齢木であり、近年多発する異常気象等により被害を受ける恐れもあり、後継樹があれば良いと考えておられた椋本神社宮司 駒田氏より令和2年10月に林木遺伝子銀行110番の利用申請がありました。そこで、野外に植栽しても生育できる見込みがある苗木3本を令和4年1月13日に里帰りさせることとなりました。</p>
関西 育種場 R4. 2. 17	<p>タイトル：兵庫県指定文化財「青谿書院」のシンボルツリーモミの後継樹が里帰りー林木遺伝子銀行110番による巨樹・名木等のクローン増殖の取組ー</p> <p>林木遺伝子銀行110番で増殖、育成した苗木の里帰りについてプレスリリースした。</p> <p>(要旨) 今回里帰りする後継樹の親木は、兵庫県指定文化財の青谿書院の庭に植えられたモミです。平成26年頃から樹勢に衰えが見られ、平成28年から樹木医が樹勢回復を行いました。このままでは枯死の危険があると考え、後継樹苗木の育成を提案しました。そこで所有者である青谿書院保存会と養父市教育委員会より、平成29年2月に関西育種場へ林木遺伝子銀行110番の利用申請がありました。同年に採取した枝をつぎ木し成功しましたが、生育状況が芳しくありませんでした。改めて平成30年2月に枝を採取してつぎ木したところ成功し、順調に成長した苗は野外に植栽しても生育できる見込みが立ちました。令和2年度に里帰りを予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により状況が困難であったため、養父市教育委員会より里帰りの準備が整う令和3年度に延期したいと要望がありました。そしてこの度、つぎ木増殖した後継樹苗木2本が里帰りすることとなりました。</p>
関西 育種場 R4. 2. 21	<p>タイトル：大願成就の象徴「光禪寺 誓いの松」の後継樹が里帰りー林木遺伝子銀行110番による巨樹・名木等のクローン増殖の取組ー</p> <p>林木遺伝子銀行110番で増殖、育成した苗木の里帰りについてプレスリリースした。</p> <p>(要旨) 今回里帰りする後継樹の親木である「誓いの松」（クロマツ）が植えられている光禪寺は、広島市西部、佐伯区五日市町にある古刹です。延宝年間（1673-1681）、備後国から光禪寺を訪れた石井兄弟は、当時の僧 大忍に仇討ちの協力を求めました。その際に成功を誓い、祈願して植樹されたのがこの「誓いの松」です。仇討ちは見事成し遂げられ、以来、付近の住民からは大願成就の象徴として深く愛されてきました。近年は樹勢に衰えが見られるようになり、また周辺の松が多数マツ材線虫病によって枯れており被害を受ける恐れがあることから、万が一に備え種の保存を目的として後継樹の育成を図ることとした光禪寺より令和2年1月に林木遺伝子銀行110番の利用申請がありました。同年2月に関西育種場職員が枝を採取し、持ち帰ってすぐつぎ木を行ったところ増殖に成功しました。その後育成管理し、野外に植栽しても生育できる見込みがたった苗木3本を令和4年3月9日に里帰りさせることとなりました。</p>

組織名 年月日	プレスリリースの内容
関西 育種場 R4. 3. 1	<p>タイトル：広島県指定天然記念物「新免郷谷のエノキ」の後継樹が里帰り－林木遺伝子銀行110番による樹木を増殖する取組－</p> <p>林木遺伝子銀行110番で増殖、育成した苗木の里帰りについてプレスリリースした。</p> <p>(要旨) 今回里帰りする後継樹の親木は、庄原市東城町新免にある広島県指定天然記念物「新免郷谷のエノキ」です。樹高約30mに達するエノキの大木で、平成17年頃から樹勢に衰えが見られ、近年急激に衰えたため、庄原市教育委員会から関西育種場に後継樹の増殖依頼をしたいと連絡がありました。令和元年11月に突然二又の幹の片方が倒れたと同委員会より連絡があり、翌月に関西育種場の職員が現況確認を行いました。従来1本の木と考えられていましたが、倒木は腐朽していたものの、立木には被害が及んでいなかったことから、2本の木が合わさっていたと考えられました。立木から増殖用の枝を採取するとともに、倒木の枝を確認するとまだ生きているものがあったため採取しました。令和2年春に立木・倒木の枝を各8本つぎ木したところ、立木は5本成功しましたが、倒木は1本だけ成功しました。そこで成功した倒木のつぎ木苗から枝を採り、翌年春にさらに12本つぎ木をしたところ9本成功しました。つぎ木苗の生育は順調で、そのうち野外に植栽しても育つと見込める苗6本（立木3本・倒木3本）を令和4年3月15日に里帰りさせることとなりました。</p>
九州 育種場 R3. 10. 13	<p>タイトル：今は無き名木の後継樹、「お祭りでんでん館」に里帰り－林木遺伝子銀行110番による樹木を増殖サービス－</p> <p>林木遺伝子銀行110番で増殖、育成した苗木の里帰りについてプレスリリースした。</p> <p>(要旨) 今回里帰りする後継樹は、熊本県八代市坂本町「薬師堂の銀もくせい」です。樹齢およそ510年と推定される「薬師堂の銀もくせい」は、幹周り約3.3m、高さ約15.6mと大きく、この地に薬師堂が建立された時に植えられたと伝わっており、花の時期には谷間に沿って遠くまで芳香が漂い地域で親しまれる市指定天然記念物でした。しかし、平成30年1月の突風により倒れてしまい、伐採・撤去を余儀なくされました。</p> <p>「林木遺伝子銀行110番」の申請は、被害に遭う4年ほど前の平成26年2月、既に八代市教育委員会からなされており、受諾した当育種場で後継樹の育成に取り組んできました。育成された4本のうちの2本が、令和3年7月にオープンした「お祭りでんでん館（八代市民俗伝統芸能伝承館）」に里帰りすることとなりました。</p>